法華経記

上の巻

包紙記入

和書門 類
一五四九九 號
二三〇 函
一 架
二 冊

宮職 七/三

424
内閣文庫
和書
一五四九九 號 類
二 冊
五三 函
二三 架

新刊紹本

内閣文庫
番號 和 15499
冊數 2 (1)
函號 153 424

国立公文書館
National Archives of Japan

天保庚子新鐫

安齋伊勢先生編輯
輪池屋代先生校閲

包結圖說

静幽堂蔵梓

一橋文庫

伊勢家乃事ハ京都將軍家殿中ノ
礼式を作りたる小笠原家の祖義
政ヨリ孫ヲ子ヲ孫ヲ子ヲ事はあまた九人
の志ある所なりあるを為先生ハ世ヲ
すぐ事ヲ英才情識まて家学を
ろ免ひしたるを今ハ以ふ人ハ及
ハ著述あるこの中に記ものも
此書ハ次ニ此包結記ハ初学

[illegible]
[illegible]
[illegible]

帛包事
熨斗包事
草花包事
瓶子口包事
銚子ゝ柄包事
玄猪餅包事
結ゝ部
たまゝの結の事
もゝなし結事
うちびき結の事
渡金包事
木花包事
扇包事
懐紙形ゝ事
銚子右口包事
同上包ゝ事
片ゝ結の事
ぢんだう結結事
男結乃事
ちなし結の事
手箱封結乃事
貝桶の結結事
物品の結結の事
かみ結結事
あげまき結乃事
相生結の事
けまん結の事
長刀鞘佩の緒結結事
刀下結結乃事
鞭結結事
文箱袖物結結の緒結の事
おゝ貝桶の緒結乃事
袖物掛緒の結結結事
五約結の事 一名はゝ結
帀結乃事 一名ゆふゝ結
のけ帯結の事
刀袋の結結の事
傘袋乃結結事
脇差下結結の事

太刀帯取結の事
風折烏帽子結結の事
裏打垂垂紐結乃事
長緒紐結の事
垂垂の時袴の紐結の事
袋の長緒結ル事
佩ル帯の長緒結の事
輪結乃事
封結の事
桜結ル事
為ぶ十の付結の事
素襖紐結ル事
単垂垂紐結の事
水干紐結乃事
狩衣の紐結ル事
回毛結下結の事
情竹結の事
撫結の事
梅結乃事
結校結の事

かゑばゝ結ル事
追加
笠のぶんだう結の事
片むすびの事　思結
鳥のゝび結乃事
玄の宝珠結の事
四角ゝ結の事
麻苧結乃事
七結結の事
長緒菊結の事
菜結の事
芋のとむぼう結の事
ゑろむすびの事
兎のゝら結ル事
芋結宝珠結の事
あ付結の事
菜ぶゝぢ結の事
長結ゑ結の事
貝桶とんだう結の事

長刀の緒結ぶの事
琴袋掾結の事
ゆるむびう結の事
ひつぢま結の事
奮結なぶ結乃事
ちくむすびの事
ちぼうの結の事
胡蝶結の事
小なむすびの事
六葉結の事
とむぼう結の事
しぼりぼう結の事

一おそく進物を紙にて包む事言ふ位の人をだんしを用ひらるべし大なる物と包むふる大きのぶん紙小れ物ハ小なのぶんを用ひ次ハ引合を用ひらるべし大なる物ハ大引合小ま物ハ小引合を用ひ紙一重ねにて包むべし物ふよりて紙一重ねをたよた ふ方なるべて包むべし

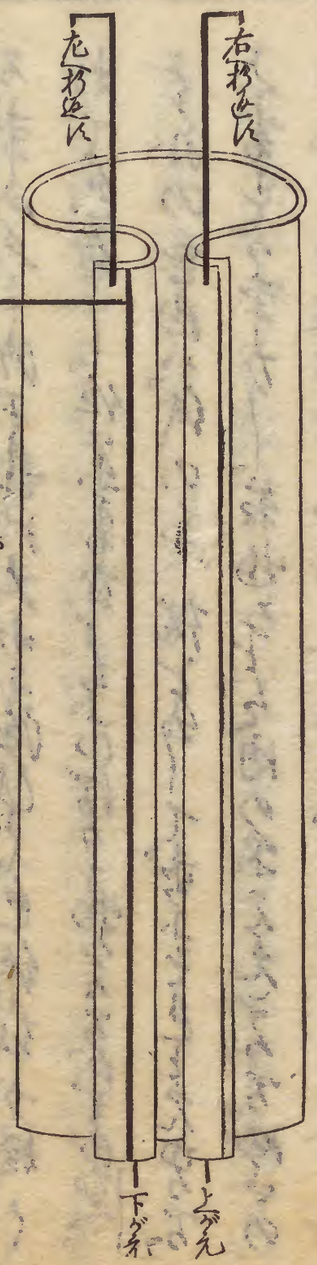
一包ミなる物を水引にて結ぶ事白紅の水引を用ひる言位の人を金銀の水引を用らるべし結び松九ま物と ぞ ふ物ハ結べ玉なとびなるなり結の方をバ右ろな

もろわな昔もろのきと云うるるな昔もかくとの和くいふ是オの詞もろわろくもろあるなの事

はべり端を右の手小ゆび引くく為也ゑら和物をぎ
南目なる小結ぶ〻ト丸和ぎ天の形ふて陽也物乃はし
くちるハ陽也加ふ丸和物ハのこわなふ結ぶ也ゑらきて
地の形ふて陰也物のならびたるハ陰なり加ふゑらま
物ハをろわ小結ぶ是古くの伝
一包たふ物ふ生物の名を書付る事ハ書ますも包紙
の内ハ物乃名数ゆのちく〻ハ事ハ目録ふ書くも其
為ハ目録なり
一物を包むふ生物の紙の和（少又ゆるやうふあり）を
出して包む物也何ふくもみえぬ様ふ紙の内〻包ゑむ

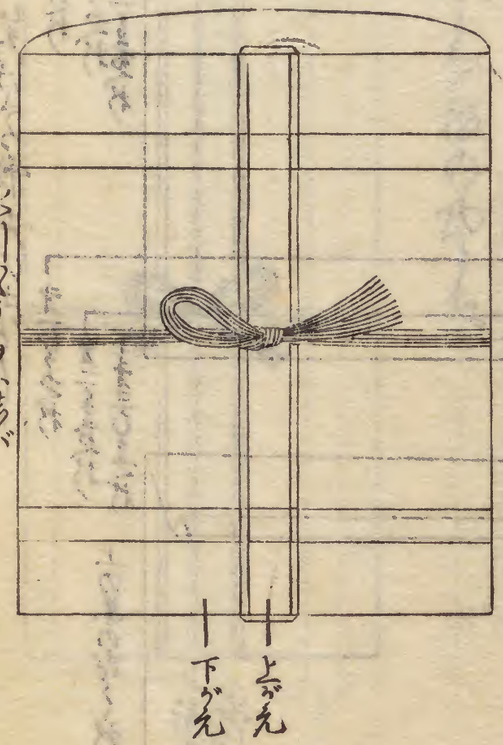
る事ゆゑ〻ゆゑ物ハ大ふ活ひく〻包紙ハ少短く
切て包ゑ〻〻但菓子などハ〻ぼ〻〻物なる包ゑ
ゑふの包ハ紙の表ハ端を切て表ふ書て表ふ書
上書をる事なり〻物をゑ内の和ふ書ゑる形
上ふゑの内ハ物の名紙書なる形
第物の上書ハ必ゑて様ふ書なり
様様ふ書ハ十ハ札ふ限る事
一金らんぜんすゑ書をるゑの様ゑ〻て丸く巻ゑるものゑ
紙を巻て小二つふ折て折の方を左ふなして巻く
ゑ平ふて紙の表裏ハ左右ハ折ゑすべし

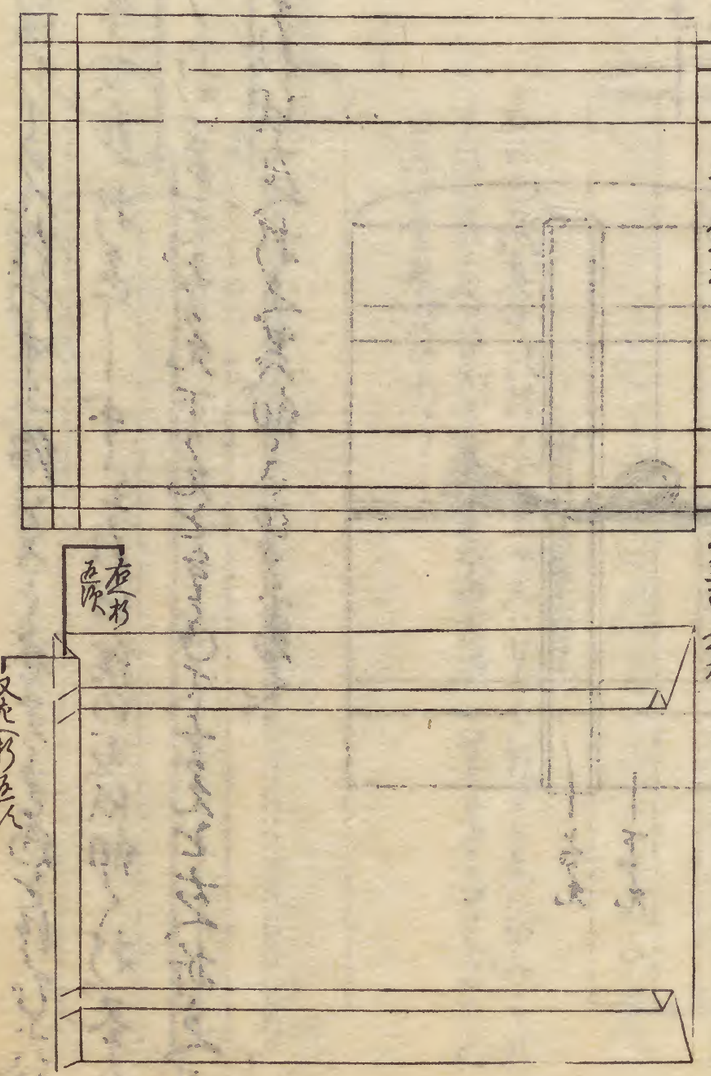
右の色紙真中に折り入れ上ゲ元ハせばく折り下ゲ元ハ広く折り
そひろき上へ上ゲ元を重ねまべあ方回しせばき中をまるく
ひろげる形だのごとく



出来上りの形まで上ゲ元を重ねかくく。

一紙後ちまんれ中ハ綿を入く巻こう書色を染むハ紙の
上下共五〜折色〜ずつ。まこと折紙の形紙細く折。又ハ紙
細く折て色てゞ上ゲ元下ゲ元と重ねてゞ上ゲ元を左へ折こう〜。
又ハ紙左へ折こう其ゝ細さ記ゞハ第。



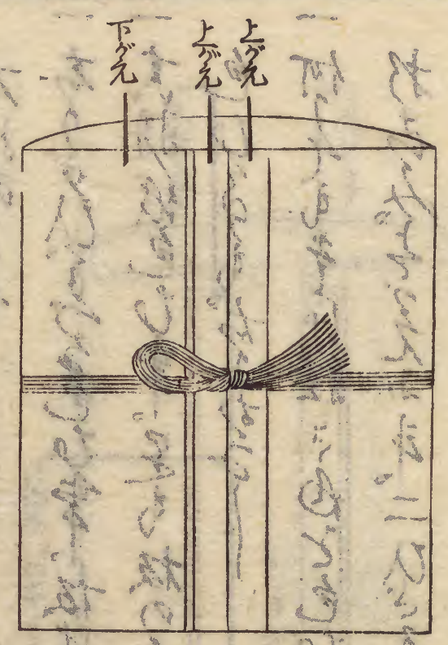


一板の物を包む事。真中にくゝり左右の端を打五手に金箔
ぐんすれば板のおもを物色に同じ。板の物とゝぶすれば板なくて
ゝくゝりをみるる織物紙をゝ徐要術を板に為形り。
術ハ巻術ありぐんすれば巻ぐんすれば
たゝみをるる板の物をゝ。

一右ハ右手不ハ上げ元ハ巻ハ紙巻ハ右手ハ
巻ハ紙ハ板の間ハ巻ハ巻ハ上ゲ元ハ巻ハ
かろ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ

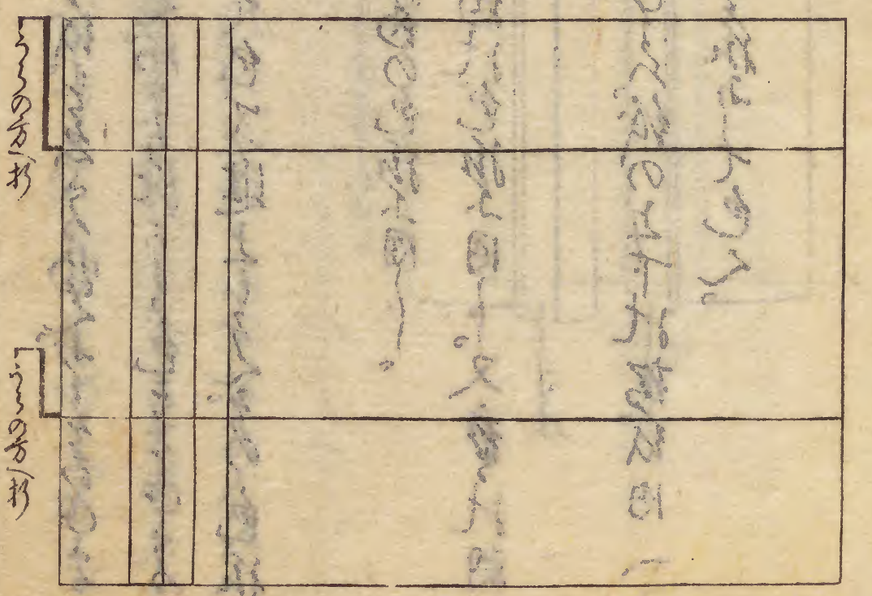
ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
時ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
右ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ

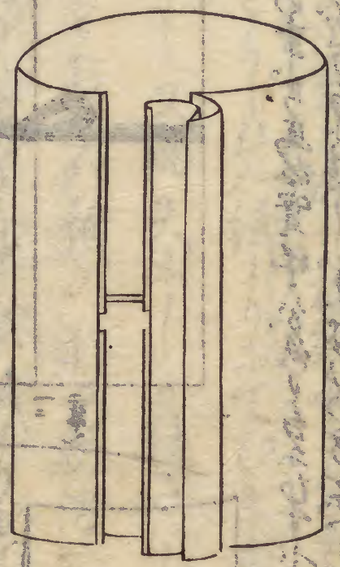
一ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
一ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
色ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
一何ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ
ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ巻ハ



右の色紙を切板ばさみの形ごとし。

水門のるゝ所をひらくゝ元物ふ落てがさるるふも。あるるまゝ流れ出るし。





右の器ゆゝ上下の板形用へ形こゝ氏ふる

一ゆづけ紙包事。右ゆづけ紙上。左ゆづの事紙下ふ元ゝ。然れ共さ紙ゆふ元す程ゆゝ。ゆふ元ゝ用ふ元ゝ。ゆゝ。ゆづの事を共ゆふ元ゝ。色ゝ。二具ゝ。上元ゝ。三具ゝ。二具下ふるゝ元ゝ。一具を上ふ元ゝ。一具ゝ。左ゆづの事。右ゆゝ。ゆづ紙ゝ紙ゝ。て一具ゝ。形ゝ。色ゝ紙ゝ。右の事ゝ。

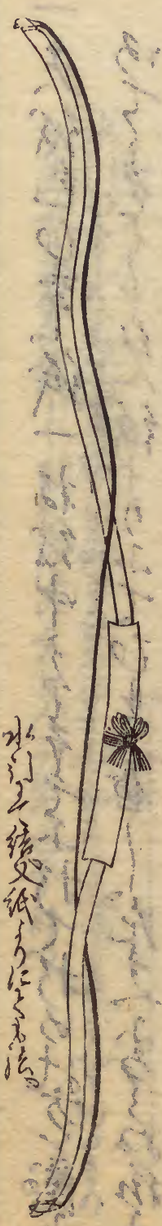
水引の事。弓馬故實紙ゝ紙ゝ多くあれども、すべてもぬぐ者へ丸ゝ巻るものゝ方をへぶ巻て巻す形り。

一矢紙色々事。紙一枚紙中ゝ二ツ折て折め七方と巻ふ
ゆて巻ゝ巻ゝ紙ゝ紙ゝ巻ゝ巻ゝ巻

一弓を包む事、ほうりの巻紙にてむすび、紙をそてふ二つふ打て
打り紙ふ所にて右のそふて紙を巻まハして茶所の吉井
にて、紙の掛紙ふ打て、水引をそ井紙事、
強のけるも強ふ事ざるも同じ。但強ふ事ハ強をだ
色まず。色ふのほうを、紙より出て強をしまり、ちと強との
ほうをてぶりちごて茶所の井ふてむすびり。強ふ事ハ
ふぶりうるふふ所ふ、ずーうるふふ。強紙ふけ
る形り

はふ物色むすびの巻。

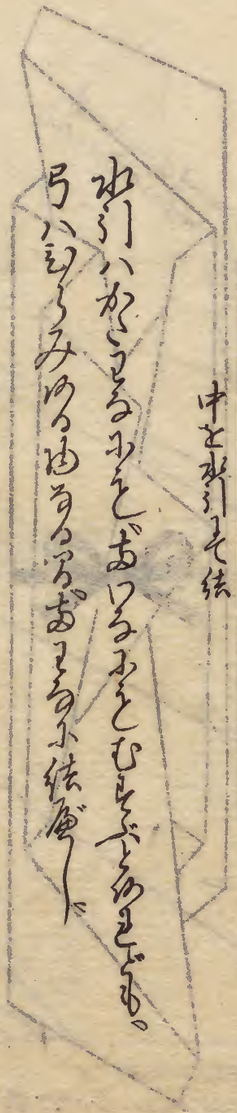
水引ふ結ぶ紙ふ上ふ結ぶ法。



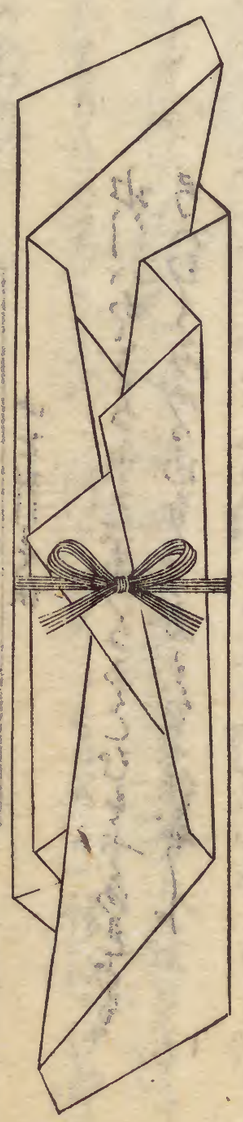
弓内所

水引ハ結ぶ法を引て結

弓ハ引ふみのる内ふ結ぶ法。

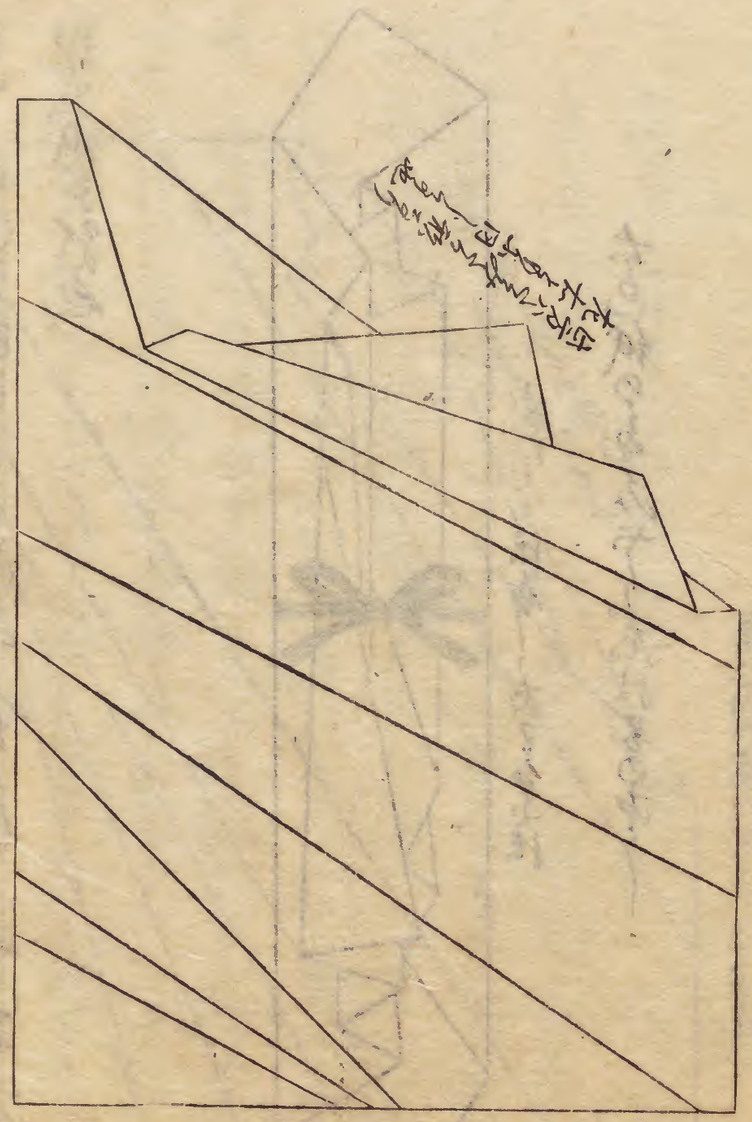


一節を色る。紙をもみちぢめて。あ方に引ぢ紙取る。
恠姫の婦人はいとゝ節すも。人ふ者と事ゆゝ。色紙
事也。



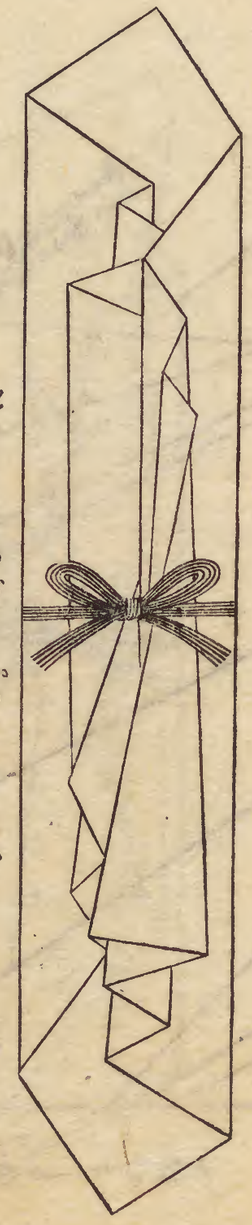
中を水引にて事ゝ。あ口るふ法。

右の色紙折やう。花れ糸のぢゝ。

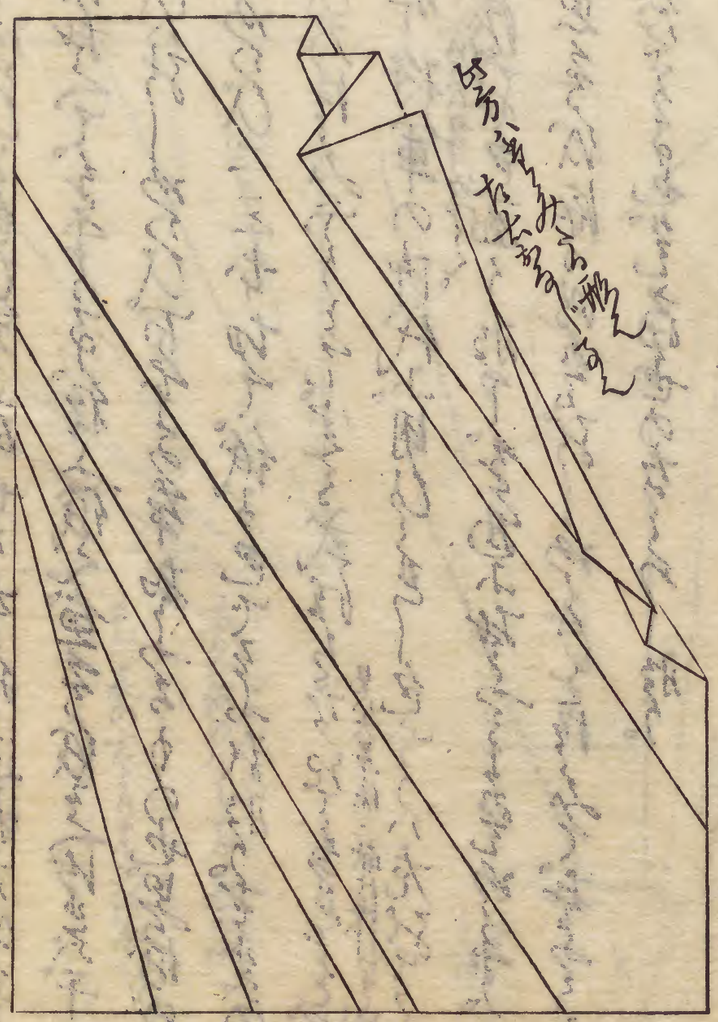


右ハ紙の表裏方くりアをる形ゝり

一つるしがきを色むすびにするには
まづ紙を折る



折りて法度にあつるの小法
六色紙のあみやう。尤は号のまゝ



此方へ逆さまに折る

是八紙の表裏方こうあつる号

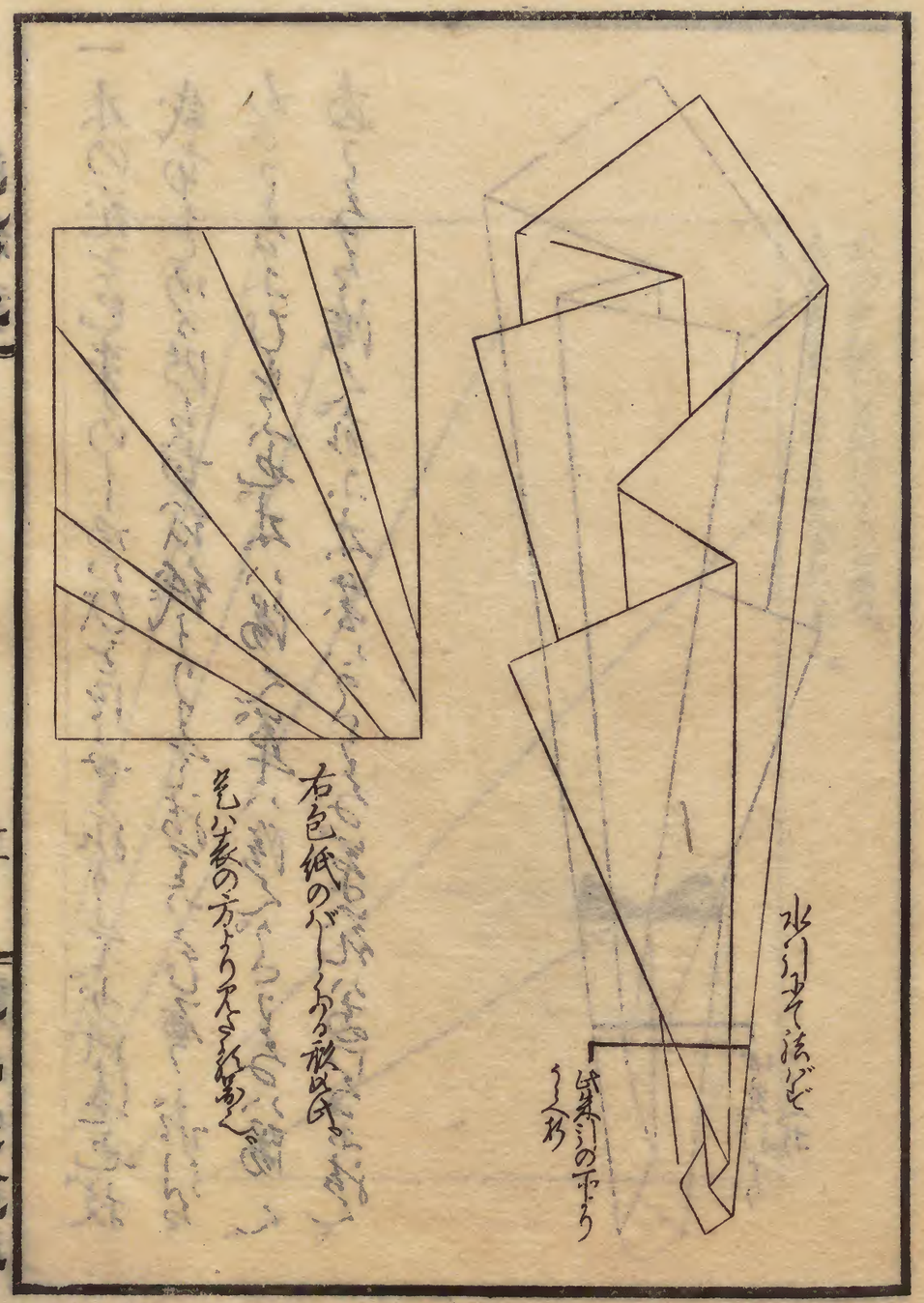
此方ハまづ紙ひろげる号より
左右あちらへ引てゐる

国立公文書館
National Archives of Japan

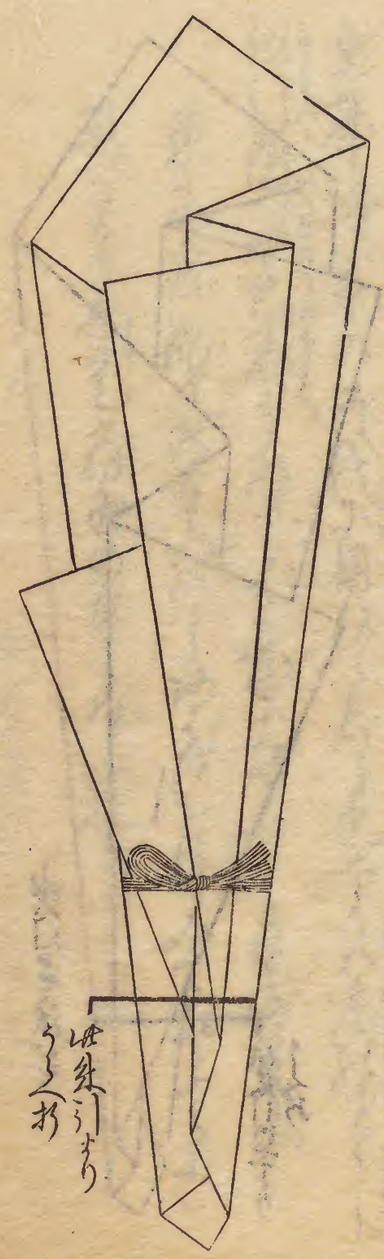
一の折びを色む事。萬世ちかく進物又ハ魚鳥の表紙ハ[illegible]千歳。魚ハ紙を[illegible]千歳。[illegible]ハ[illegible]の事ハ[illegible]の也。器物の[illegible]ハ[illegible]びに二三ハ切て紙を色でふ[illegible]ハ[illegible]びの[illegible]ハ[illegible]京都将軍の所代ハ用ひ[illegible]色ハ[illegible]

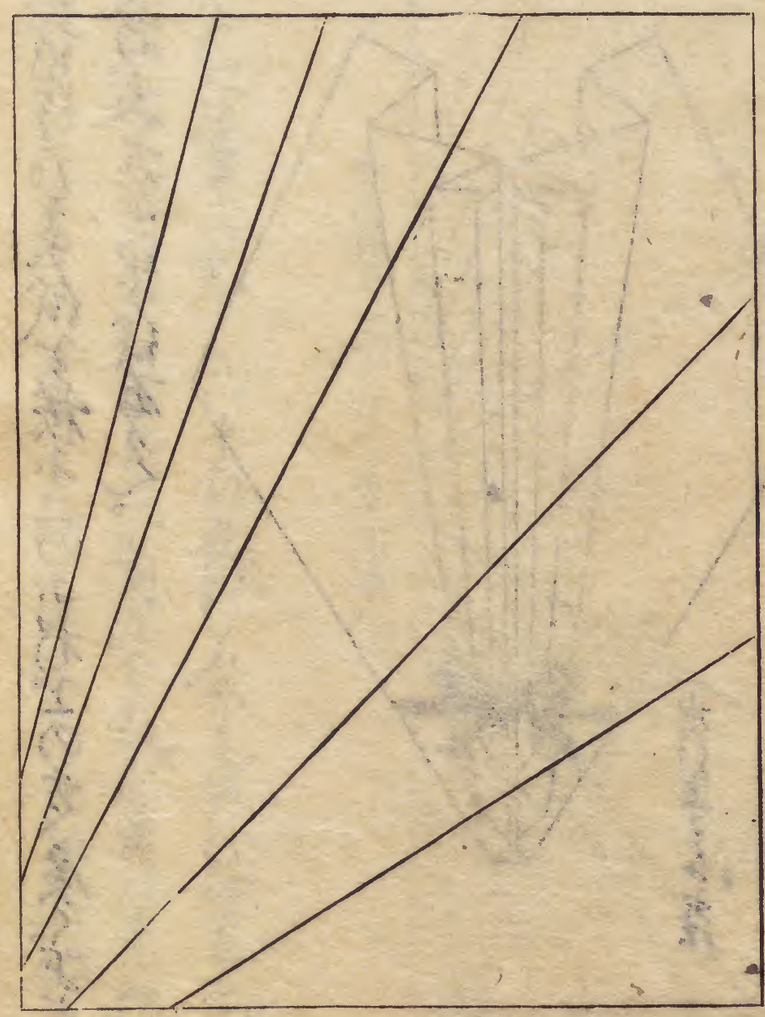
魚ハ紙[illegible]ハ[illegible]

及ばざる也。[illegible]萬世の[illegible]

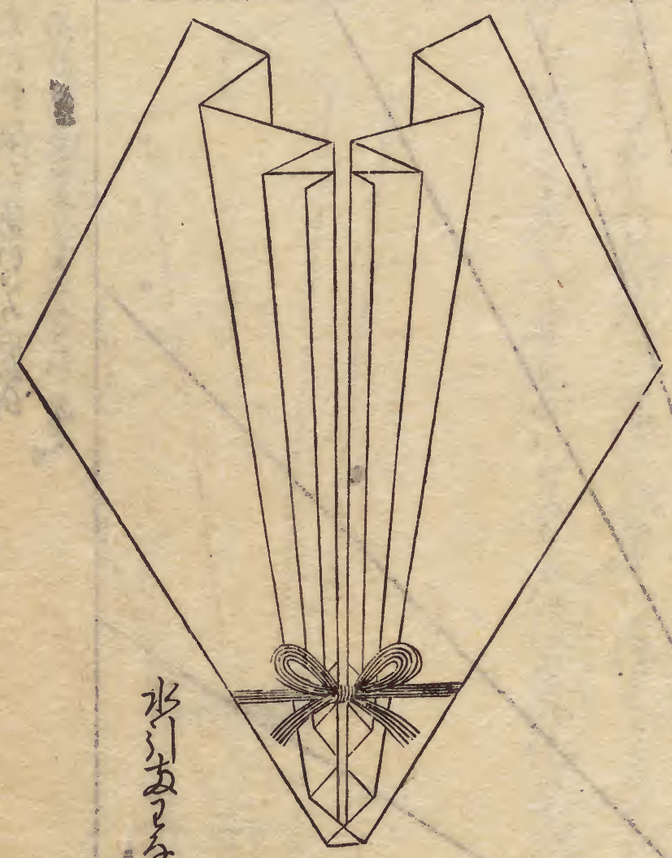


一本の花を色事のしるべとなすべし。其花すでに遠也。枝
幾切をいる時は。如紙紙をうすく清をつもり。ぬきうち
かさうるをひしぎ也。本は陽にて。葉は陽にて。
あらうるを清にて。葉ふ本葉は陰にて。葉花は陽にて。





一草花紙にてもつて紙を横ふ二つふ折上の方へ戻くしたとべせぐく折あと方ふ二つぶ紙あるべし。



水引あるべし

大の色紙にてもつげあるべし

此ふ横ふ二つふ折てぶぐ紙あるべし。

一扇紙色む事。一色とも八十切也。たゝ紙四角四方ふ切ぶ。三角ふ切。三角ふ上の頭紙。折目の方へ折色して。左右ふ紙あるべし。

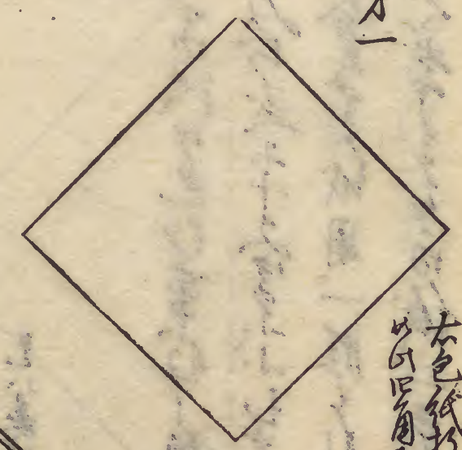
職人ハ色まき色ヲふうしたるをそしてみやうぶをうさぎてぶたをそしてぶたをみやうぶはまきて色むすぶ

形ハ扇ノ形

形ハ扇ノ形ニ折ル

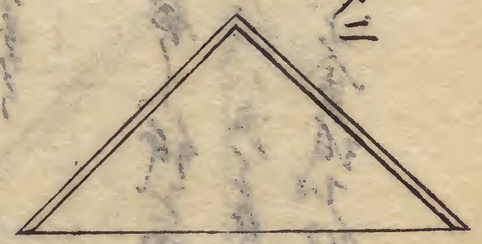
第一ノ図ノ通リ

青山堂蔵版



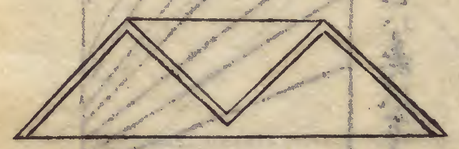
第一

大色紙折紙紙ヲ半分ニ角ニ折ル



第二

四角ヲ折ル時ハ此ニ二つ折ル。三角ニなる

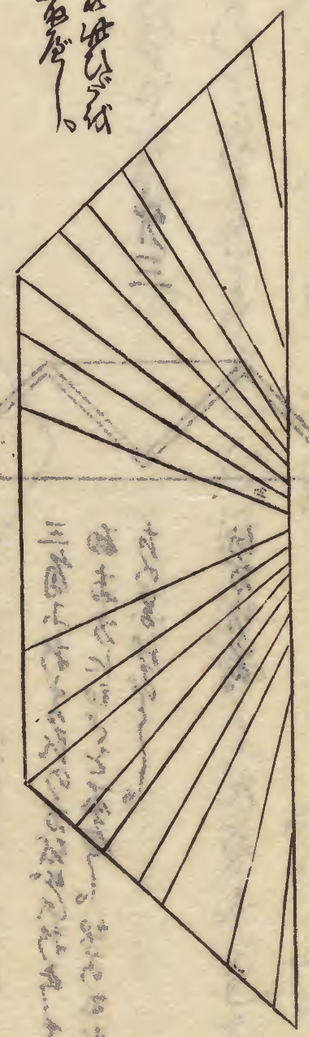


第三

三角ニ折る時の方紙ニ折たる。角ヲ方ニ折ヒとを重ル。此の方紙。ちの景ニ成ル。

此方ハ角。

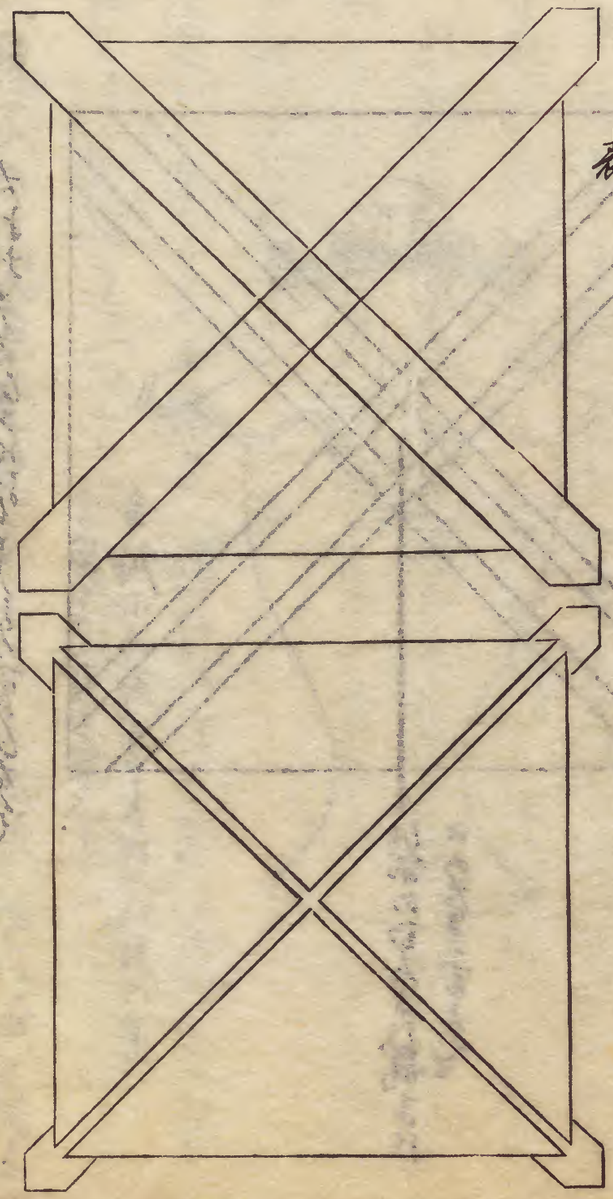
青山堂蔵版



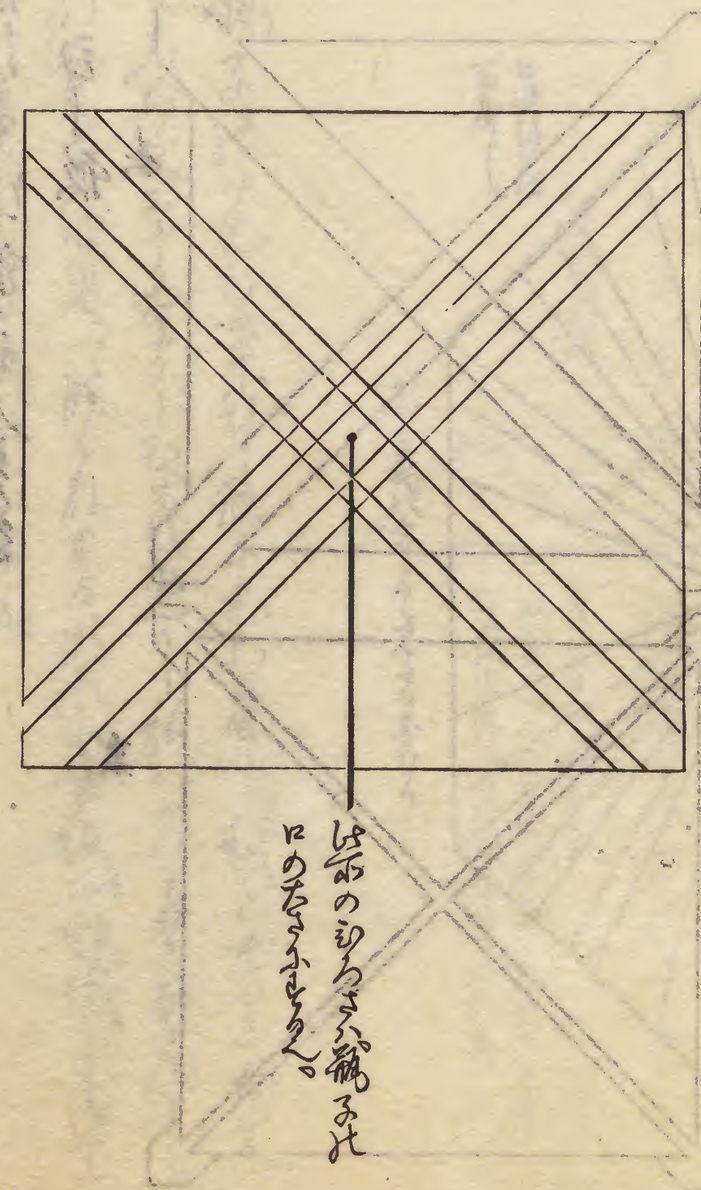
はなびら紙
五枚

先ハ表代方ニて六ツ号なり

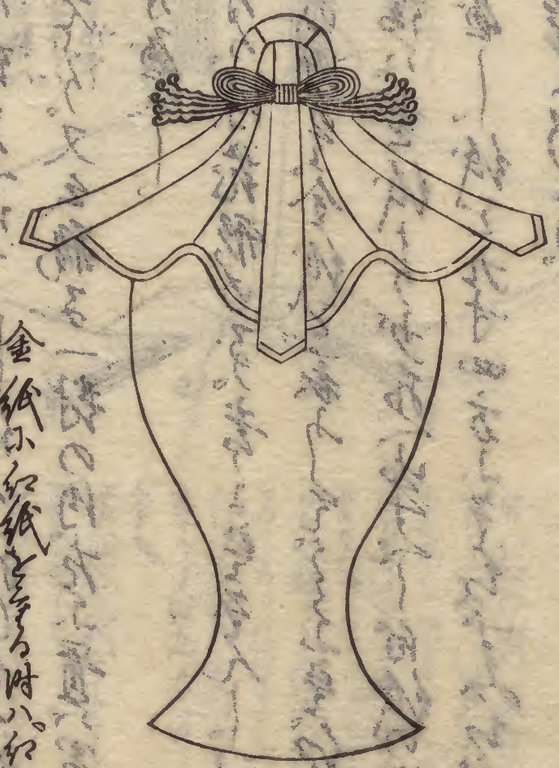
一凧ノ代ハ色も事ニ形ハ色も厚ク紙と骨ハ切て。
どうみちゃ〻ホ十ノ字ホ形ノ紙五枚ヲ一紙ハ少ク長ク切て。
引合ノ紙用ノ一隅ニ孔ヲ穿ち
打ん骨ノ方ハ紙一ニて四也。



水引ヲ結て揚ホちゃ〻ノ骨ノ
引合ノ紙
表
裏



瓶子口色そろ形式也



金紙小紙とそる時ハ紙の賀。
今安らう丈少半へ

又瓶子の口紙據花形式

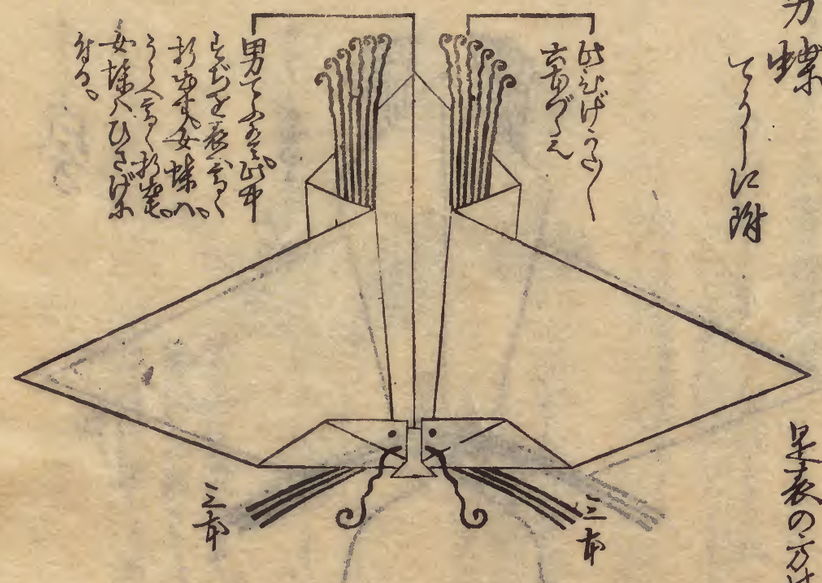
二つ折にして、紙の中に、紙をもうふくに、折て、女蝶花形紙をあてゝ、紙を、ひきぬき、蝶花形の糸、たゝふくろ、又云、紙を一対の内、たゝ貫バ男蝶、たゝ貫バ女蝶と、名付る。

一紙をふくろ、蝶花形のこと、書ようにして、会て、切べし。

一陰晴の時、金紙と、表ハ、紙をもて、紙の、ほうに、金紙より、少、出すべし。紙の内ハ、一色にて、折べし。紙を、九寸四方ふくろ、すみちがへに、二つふ、折て、女蝶を、打なり。

男蝶

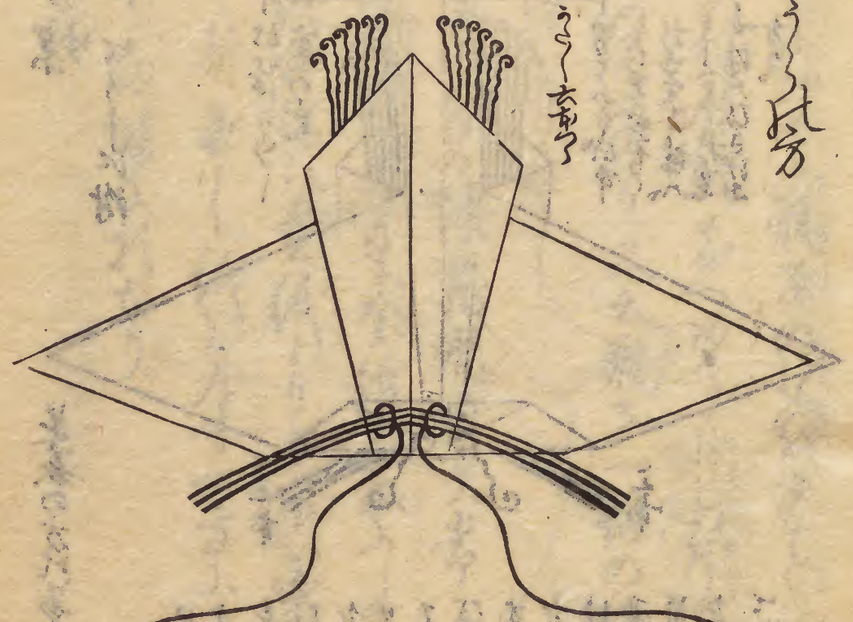
てゝ、に、附

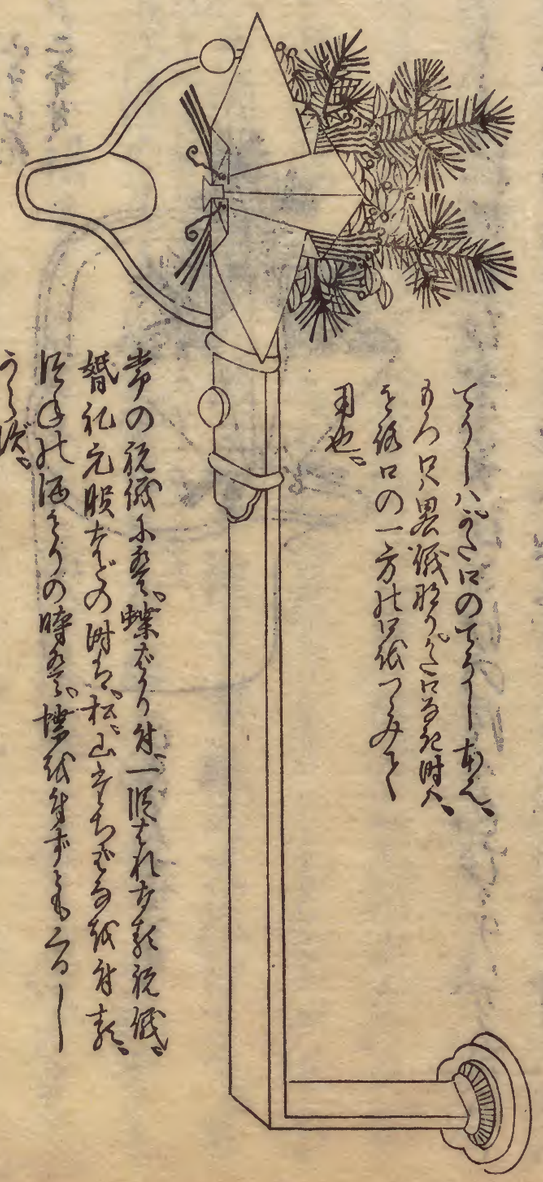


上表の方は黄

目ハ紅の水引紙、嘴を、結び、紙にして、うしの方へ、引、をする、ひもびも、紙、
ひもの方、目ハ、ひもの、水引、紙、ひもびも、
引、をする、ひもの、水引紙、ひもびも、
なる。
ひもと、ぬき、紙の、水引、ひもの、ひもびも、
ひげと、紙の、水引、ひもの、ひもびも、
あて、紙、角、たゝみて、ぬき、ひもの、こゝが、
なる。
蝶紙、金紙、出て、ある、内、金の、水引紙、
用、べし。
目の、水引、ひもの、ひもびも、
なる、ぬき、ひもの、ひもびも、
て、ひもの、ひもびも、

青山堂蔵版





一てうしゝ柄色む事、矢ひさげの時ハ、色紙を
形、京都将軍の所代、殿中にて用ひ申候。
つまをすると、舊記ふるき事ゝ、
時宜ゝ、ひさげ色紙、法式なり。

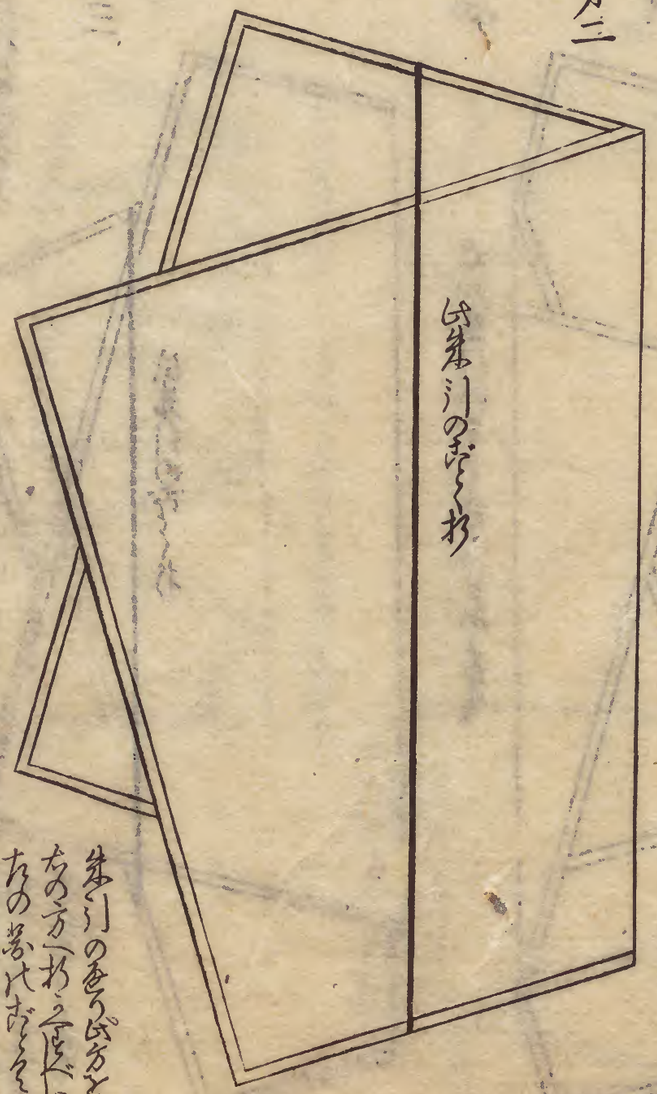
一紙ふる共、右口の色紙の事、
所口のてうし一本式なり。色も古殿中にて用ひ申候。
物をとゝ口の中に記ふるこゝ、あ口の色ハ、祝酒の
時、尤古の人ふ、酒紙とゝむるふ、あ方ひぐん、あふ所ゝ
中ゝるものゝ、ぢをび紙口ゝ、異儀なき祝酒の時ゝ、
右口ゝ酒入ゝるゝ、式の時ゝ、さを色、又物ゝ
人ふ酒をのまする時、又軍陳の時、敵の大将紙なり。其
比ゝ、ゝ、ゝ、

物なるべしの如き不著なる紙を以て横ふる事
なりしなり。第一の紙法帖にして色紙をもあ重ねし
色法式なるべし。なるべし。石の上にハ異風なり。
大和なるの口色紙ハ中ごろ大家流。遠土流の
面流なるべし。京都ハ将軍の用ひ給ふ。庖丁ハ
流儀なり。なべて食物吞物なるべし。餅ハ赤色紙
なるべし。庖丁人の流儀なるべし。
一云 猪の餅色々の事。京都ハ公家ハ中ごろ桜の餅紙。
所蒙者ともしばなりしなりとも云へり。餅をもつかふ
なり。其石のまるるふくしたる。所第ふ第ふる紙

法なるべし。三職を初め諸大名ハ出仕の日ハ
なるべし。出仕なるべし。夏方にて中福石紙を色
上福を色紙ハ書なるべし。其色紙ハ金ハ
三の下なるべし。一ハ下絵の紙へ第ハ
なるべし。金銀の泥にて書くべし。二ハ白紙書にて切箔を
置なる事なり。三ハ白紙にて切箔を
用ふる。又上色にて色々の色紙書にて
奮紀ハ書なり。又三職ハ切箔大角の打箔ハ
其ハ小角の折箔ハ其ハ色々がいなるべ
侍ハ書なるべし。第二番の侍ハ

右包紙左の如くなるべし。第一第二はだとく折置し。

第二

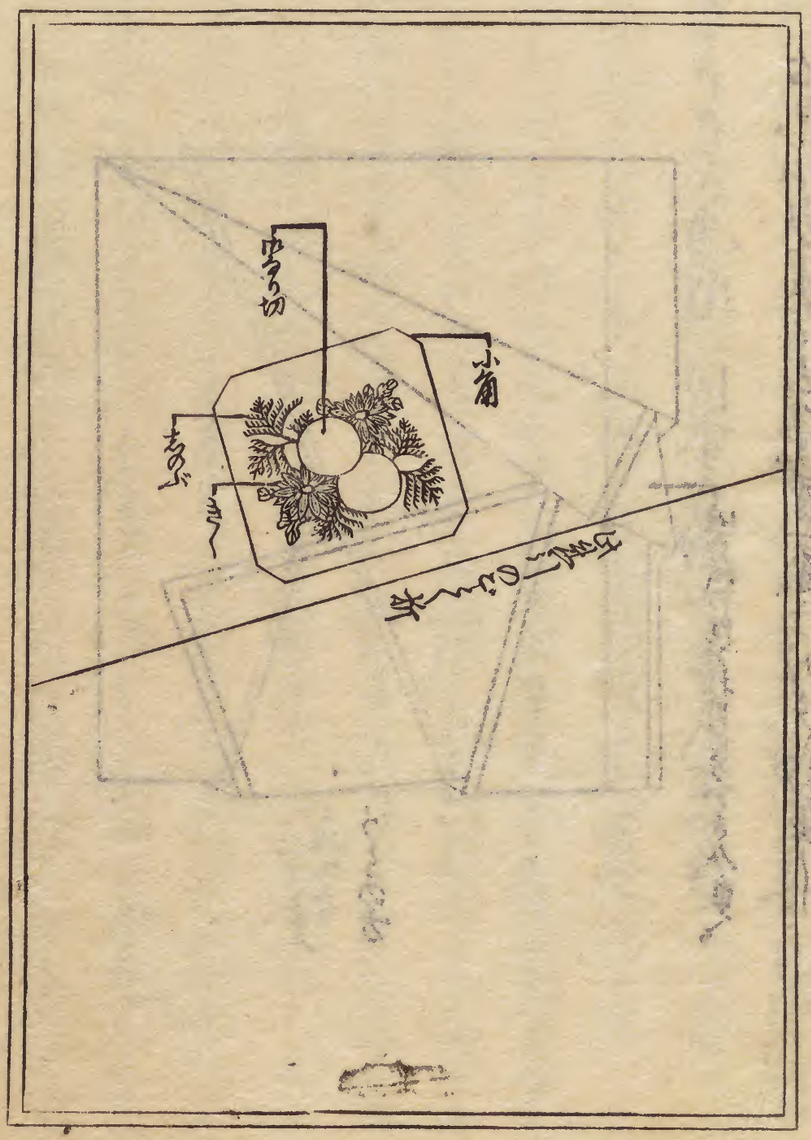


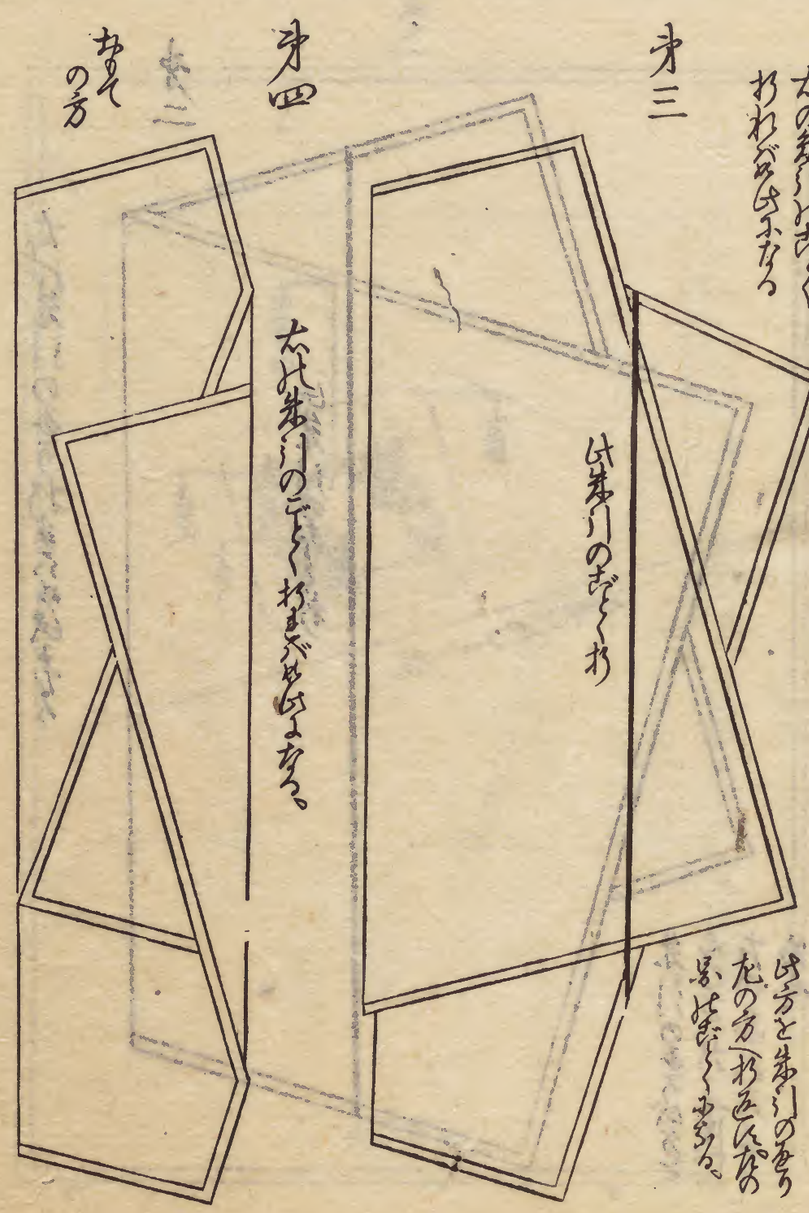
大はし第二の通り折まへ式まる

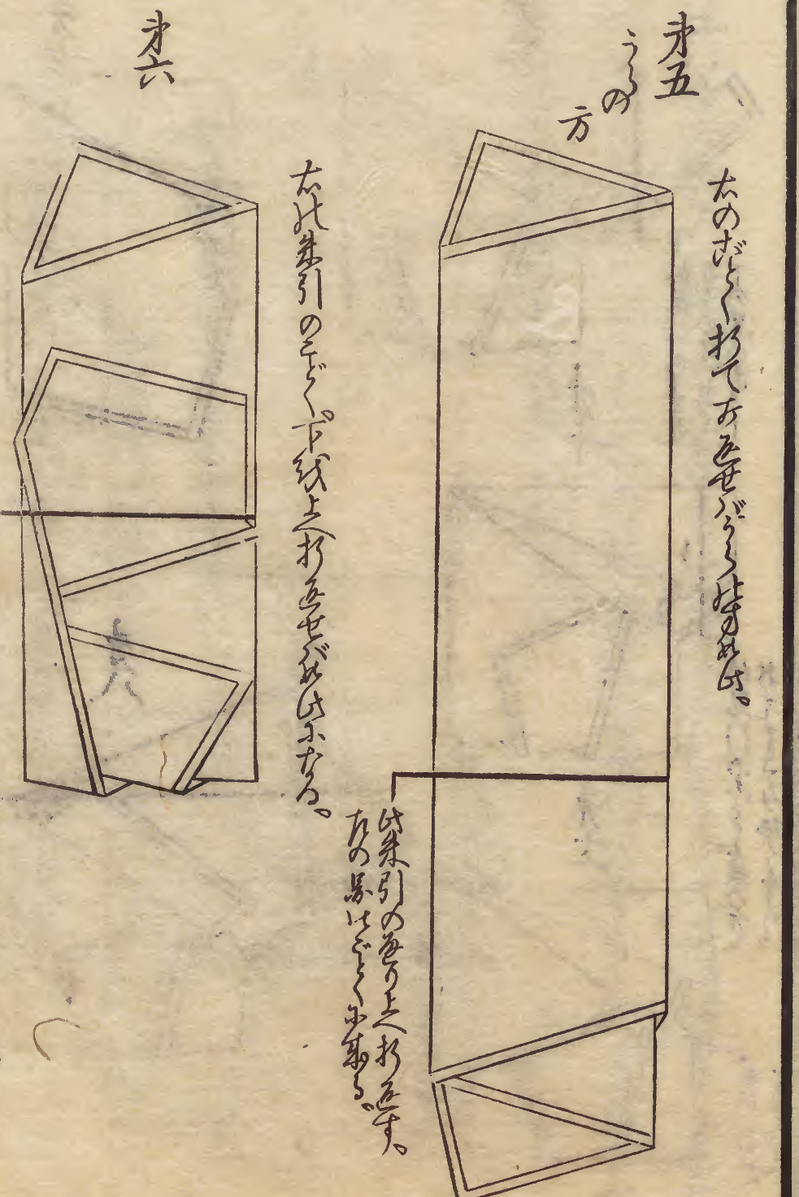
はし第二のぶ〻折

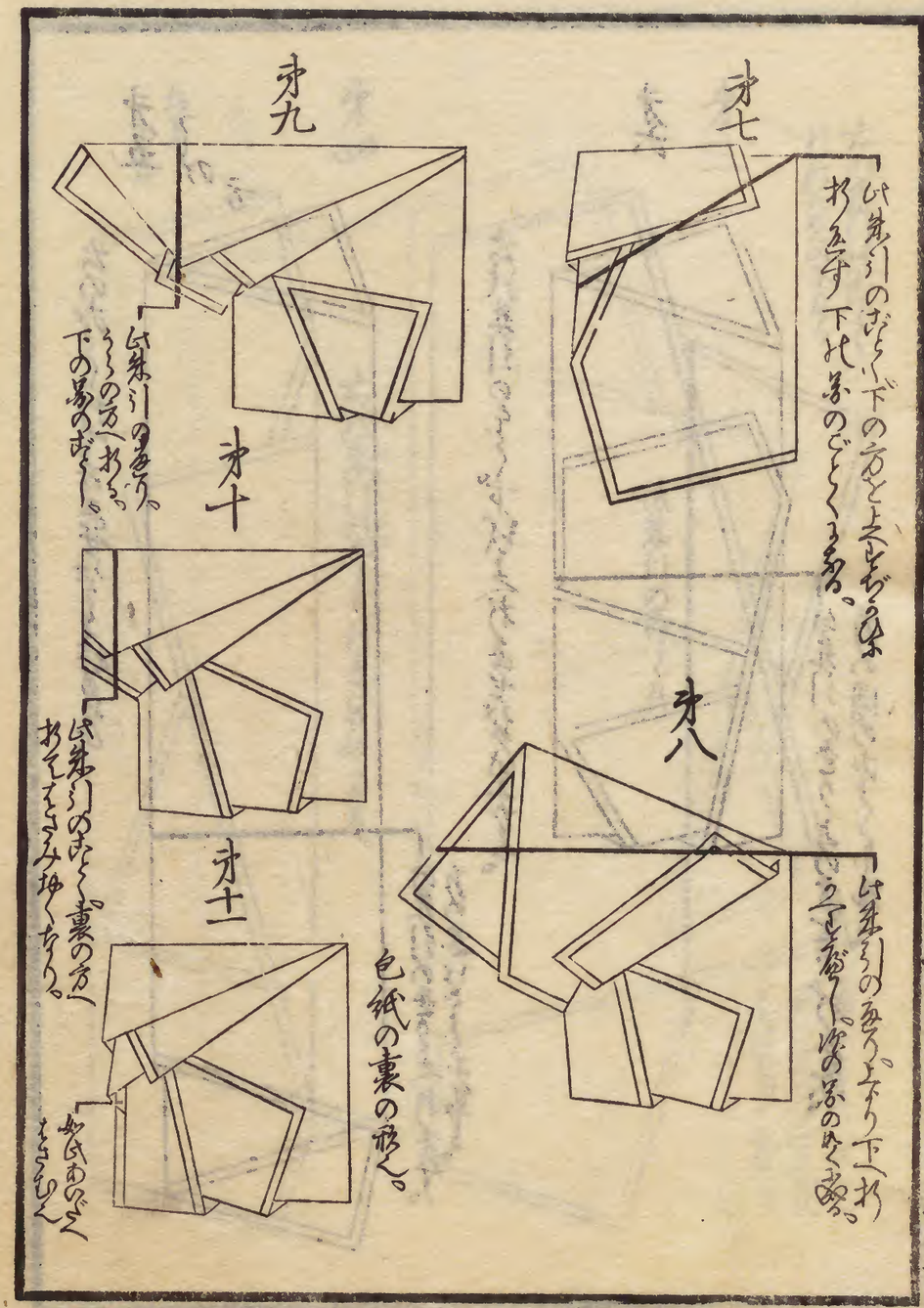
第二の通り式方を左の方へ折こんだ。右の巻はしおそ物也。

第一

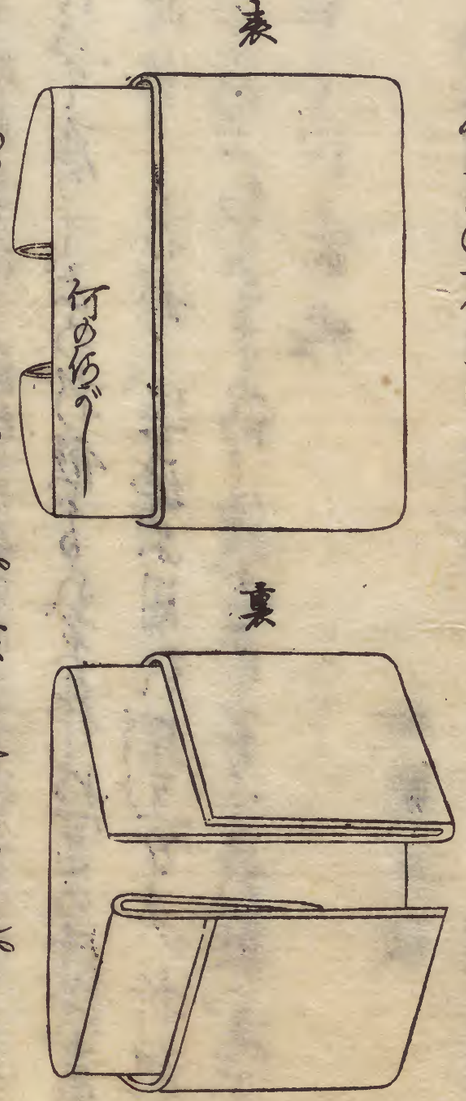



才三
才四
右の通りにおりわるべきなり
仕方と通りの通り右の方へ打ち広げ右の景はぐくまる。
仕通りのごとく打ちまべきなり。
右の方へ


才五
うらの方
才六
右のごとくおりてあをぐうくはなれ。
仕通りの通り上へ打ち広げ右の景はぐくまる。
右仕通りのごとく下紙上へ打ち広げべきなり。
仕通りの通り上の方を下へ打ち広げ右の間のごとくなる。



一所玄猪の餅つゝみさる上紙又上色をるゝ。向て公家色のやうに色しゞ大名の被官人（ゆゑ）下色をそ上ぢゝみ



何のもつゝさるもの上紙ぢ。

たゝん書ふ方ゝ公家のなし方ぢゝ。第五別条中に例記す家略す

右書家に傳ふる所の色紙折形也。世俗の折形とは。巻紙、杉紙、紙ゝ色紙、は三所の色紙を以て、何色をもこゝに年号を書し、其の折形は京都折紙の所代に用ひ、其ゝ折形に脇詰に用ひ甲乙などの折形なり。商家に多く行れるゆゑ、伝授、金西ゝ家ゝ折形、尾上の家ゝに行る所也。

伊勢平蔵

寶暦十四甲申年二月十二日　貞丈書

追加

一なよぎ　一ゆうしきり　一かうし　一さしも　一月ぬきかうぶり　一ゆうごん　一ゆみ筆　一かな分筆　一かうぶり　一ちやせん　一ちゝみけぬき　一矢の根

右は所々にて色紙を折て紙をとゝみちがゝして色々伊勢流河内貞順云十四ちがゝ元始府ゞの中ゝ中を水引にて結ゝ色紙左の

図のごとく
紙三の本より裏へ折る
紙三の本より裏へ折るなり

右色紙のバーより折る形式
折めの方

国立公文書館
National Archives of Japan